市政トピックス

本庁舎建設への期待や役割について話し合いを行いました

10月14日、市役所の本庁舎建設を考える「市民ワールドカフェ」を開催し、本庁舎と周辺施設の役割や、庁舎の市民スペースの活用などについて話し合いを行いました。

ファシリテーターは、全国各地の自治体で、地域社会をデザインするプロジェクトを支援している遠藤智栄氏。遠藤氏の進行によって、各テーブルのメンバーが一定時間で席替えを行うワールドカフェ方式で話し合いが行われ、参加者はアイデアの幅を広げていました。

話し合いでは、参加者約50人が4人程度のテーブルに分かれ、まちづくりに対する考えを共有しました。各テーブルでは、市が整備を進めている七日町や千手寺町周辺地区の図面を見ながら、「子どもや高齢者、障がい者も利用しやすい施設を考えたい」「気軽に立ち寄れる、若者が魅力を感じる施設にしてはどうか」など、新たな庁舎への期待とともに、さまざまな提案が出されました。

市役所の本庁舎は平成34年度中の供用開始をめざし、計画を進めています。今後も、市民が愛着を感じる市役所になるよう、市民参加の機会を大切にしていきます。

▲提案や気になったことは、テーブルで1枚の模造紙に書き出し、意見を共有しました

▲参加者は学生や社会人など、世代も立場もさまざま。多様なアイデアがあふれます

大崎市民憲章に込められた思いを表現した書を表彰しました

市内小中学校35校から総数257点の応募があった「平成30年度大崎市民憲章書道コンクール」は、審査会を経て、45点の入賞作品を選定しました。

最優秀賞と優秀賞を受賞した皆さんを対象に、10月10日に表彰式を行いました。

審査員を務めた古川第五小学校の菅野先生からは、「一人ひとり、作品に誠実に向き合う気持ちが伝わってきた」などの講評がありました。

審査結果や表彰式の様子は、市ウェブサイト(http://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/10,25808,25,94.html)にも掲載しています。

大崎市民憲章書道コンクール最優秀賞・優秀賞受賞者

区分	氏名	学校・学年
最優秀賞（2人）	▶ 佐藤 和奏さん	古川第五小学校4年
	▶ 石澤 音羽さん	古川南中学校1年
優秀賞（7人）	▶ 宍戸 理乃愛さん	東大崎小学校3年
	▶ 後藤 芽衣さん	東大崎小学校4年
	▶ 三塚 優奈さん	岩出山小学校5年
	▶ 伊藤 凜音さん	古川第二小学校6年
	▶ 鈴木 悠俐愛さん	古川第三小学校6年
	▶ 鈴木 凛子さん	古川第四小学校6年
	▶ 相澤 麻奈さん	古川東中学校3年

▲最優秀賞、優秀賞を受賞した皆さん

2018 10月の主な出来事

- 1日 ●『ささ結』新米試食会
- 6日 ●リゾートみのり10周年記念セレモニー ●古川軽トラ我楽多市場
- 8日 ●多文化共生シンポジウムinおおさき
- 12日 ●おおさき産業フェア2018（～13日）
- 13日 ●第2回ふるさと宮城民謡フェスティバル
- 14日 ●新米まつり2018
- 20日 ●子育て支援拠点施設安全祈願祭 ●健康と福祉のつどい（～21日） ●フランク永井歌コンクール（～21日） ●はたらくくるま大集合 ●2018おおさき古川秋まつり（～21日）

▲10月10日、おおさき宝大使でWBA女子世界フライ級チャンピオンの藤岡奈穂子選手が、表敬に訪れました

Discover Osaki

地域発 お・ら・ほ・の・ま・ち

自分の住む地域を「おらほ」というと、親しみや愛着を感じませんか。おらほの地域づくり、おらほの隠れた名所、おらほのおいしい特産品、おらほの伝統のまつり、おらほのイベント・・・。
そんな、愛してやまない「おらほの地域」を発信します。

岩出山発

華やかに一休み

10月6日、「グリーンツーリズム 秋イベント2018」の一環として、岩出山地区公民館まつり内で華舎（はなや）か展が開催されました。

▲華舎（はなや）か展内に展示・販売されていた雑貨や小物

展内には地元サークルで活動する人などが、地元の材料を用いて作った小物や雑貨が陳列され、手作りとは思えない出来栄えに訪れた人は感心し、気に入った商品を手に取っていました。

グリーンツーリズムとは、「自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動」とされています。市内各地域で、さまざまな催しが行われていますので、皆さんも、市内の魅力あふれる自然や文化を体験してみませんか。

▶展内では手作りスイーツなども提供され、終日にぎわいを見せていました

松山発

運動会で地域の絆を深める

10月14日、松山野球場で「松山ふれあい運動会」が開催されました。松山地域の住民が一堂に会し、長縄跳びや親子で挑む徒競走、工夫を凝らした笑涯物リレーなど計12種目を行政区対抗で競い合いました。

▲縄を回す人、跳ぶ人が息を合わせて記録更新を目指しました

「力を合わせて」と題した綱引きでは、行政区が一体となって参加。手作りの応援グッズを用いた応援に応えるべく、競技者は一所懸命に綱を引いていました。勝敗が決まると会場内からは大きな歓声が起こり、この日一番の盛り上がりを見せていました。

▲綱引きでは駅前二区が圧倒的な強さを見せ、三連覇を達成しました

▲親子で息ピッタリの二人三脚。自然と笑顔がこぼれます

田尻発

地域を横断 タスキでつなぐ

10月14日、田尻地域の秋の風物詩、第35回田尻ふれあい駅伝大会が開催されました。

参加した17行政区の対抗で行われ、大貫小学校から田尻総合体育館までの約12kmの道のりを、1チーム11人～20人の選手が優勝を目指してタスキをつなぎました。

沿道に集まった大勢の応援団は、選手が一生懸命走る姿を見ながら、「がんばれ！」「負けるな～」と大きな声援を送り励ましていました。

各行政区の皆さんがゴール前で見守る中、富岡行政区が激戦を制して2年ぶりの優勝を果たしました。富岡行政区の皆さん優勝おめでとうございました。

◀次は頼んだぞ、とタスキをつなぐ